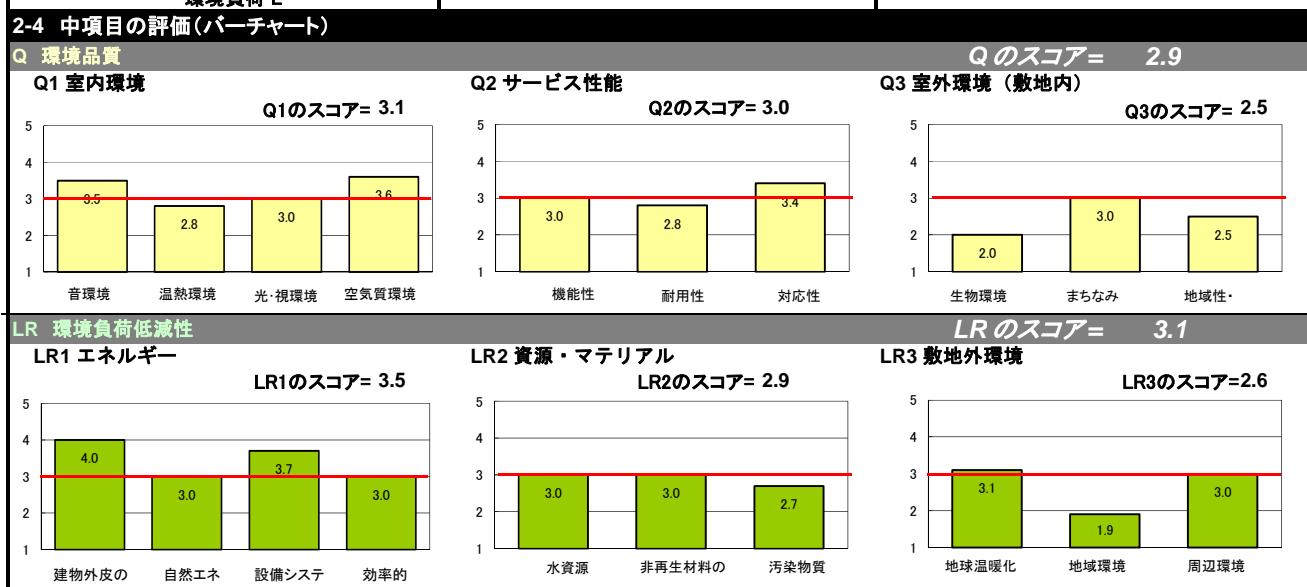
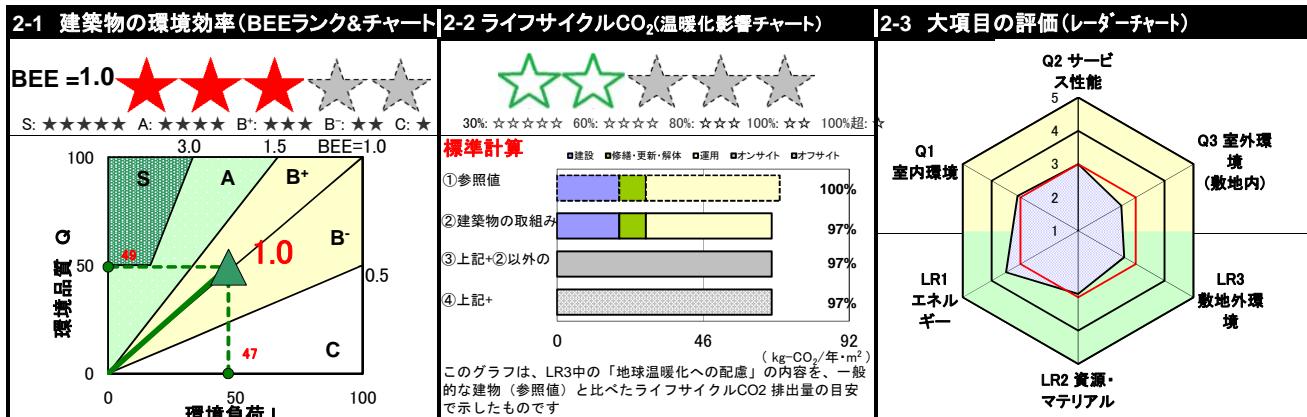




■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜市神奈川区神奈川本町6番1分譲マンション計画	階数	地上6F
建設地	横浜市神奈川区神奈川本町6番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年5月13日
敷地面積	1,755 m ²	作成者	結城 彩菜
建築面積	1,090 m ²	確認日	2024年5月16日
延床面積	4,287 m ²	確認者	河内谷 宏



3 設計上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 中庭を設ける等し、集合住宅の居住者に住みやすい環境を確保する。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・住宅の開口部、界壁、床について遮音について、住環境に配慮する。・住戸については日本住宅性能表示基準(断熱等性能等級)は等級4とし、断熱性能を確保する。	・住宅の居室については天井高を2.4m確保する事により快適性に配慮する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
・管理組合を形成し、効率的な運用管理体制を構築する。	・内装材壁は軽鉄下地を採用、二重床・二重天井を採用する事により、リフォームの際等、構造躯体との分別を容易にする。・維持管理に配慮し、内装材、外装材には汚染性の高い製品を採用する。
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
・セットバック部分を設けて周辺の建物に圧迫感を与えないように配慮した。	・横浜市福祉のまちづくり条例、横浜市自転車附置に関する条例等、市関係機関との協議の上、計画を進める。

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
- LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)横浜市神奈川区神奈川本町6番1分譲マンション計画

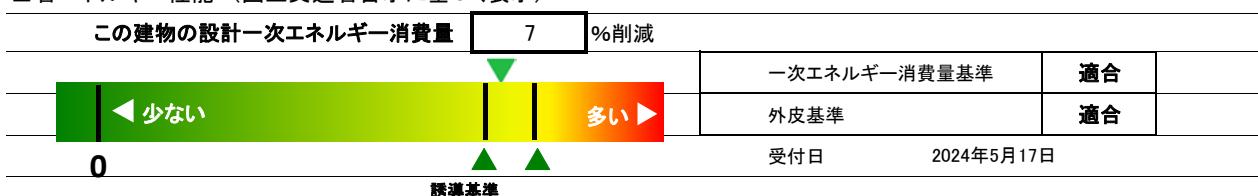
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①断熱等性能等級4相当

③BEI=0.93

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

3

■耐用性・信頼性 (⑯耐震・免震 ⑰部品・部材の耐用年数向上 ⑱信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境 ⑰まちなみ・景観 ⑱地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)

エネルギー・マネジメントシステム導入



スコアシート	実施設計段階	重点項目	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
配慮項目		<非住宅> <集合住宅>					
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境			4.0	0.15	3.5	1.00	3.5
1.1 騒音			3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音			5.0	0.50	4.0	0.50	-
1 開口部遮音性能			5.0	1.00	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	4.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	4.0	0.20	-
1.3 吸音			3.0	-	3.0	-	-
2 溫熱環境			2.6	0.35	2.8	1.00	2.8
2.1 室温制御			2.3	0.50	2.7	0.50	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	2.0	0.63	2.0	0.63	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境			3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	3.0	0.50	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	1.00	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境			3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気			3.0	0.40	3.0	0.38	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理			-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	-	-	-
2 嘴煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	-	-	-
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.0
1 機能性			2.2	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	1.00	-
3 パリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	3.5	0.40	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	4.0	0.50	-
1.3 維持管理			2.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性			2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性	防災	⑯耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防災	⑯耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	-
1 車体材料の耐用年数	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性			2.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			-	-	4.2	0.50	-
1 階高のゆとり			3.0	-	5.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	-
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-



スコアシート	実施設計段階	重点項目		建物全体・共用部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体 重み係数
		<非住宅>	<集合住宅>			
配慮項目						
Q3 室外環境(敷地内)	6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑯生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑯まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑯地域性への配慮	3.0	0.50	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑯敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-
LR 建築物の環境負荷低減				-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.0	0.20	-
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.7	0.50	-
4 効率的運用				3.0	0.20	-
集合住宅以外の評価				-	-	-
4.1 玄二タリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-
集合住宅の評価				3.0	1.00	-
4.1 玄二タリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-
1 水資源保護				3.0	0.20	-
1.1 節水				3.0	0.40	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-
2 雜排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-
2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.20	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.70	-
1 消火剤				2.0	0.33	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-
3 冷媒				3.0	0.33	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-
1 地球温暖化への配慮				3.1	0.33	-
2 地域環境への配慮				1.9	0.33	-
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-
1 騒音				3.0	0.33	-
2 振動				3.0	0.33	-
3 悪臭				3.0	0.33	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-
1 屋外照明及び屋内照明のうらに漏れる光への対策				3.0	0.70	-
2 垦光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-
上記以外の重点項目					-	-
<事務所用途>					-	-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑯知的生産性向上への取組	-	-	-
<住宅用途>					-	-
健康と安心					-	-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	1.0	-	-